

- (3) クレンメ
- (4) 潤滑油
- (5) ちり紙
- (6) ゴムシーツおよび小シーツ
- (7) 50%グリセリン液
成人 80~100cc
小児 40~ 50cc
- (8) 膿 盆
- (9) 綿毛布
- (10) 便器および便器覆い (男子の患者には

尿器を加える)

② 方 法

石けん浣腸の方法 (1)(2)(6) の代りに次のようにする。

50%グリセリン液を浣腸器を吸いあげ、カテーテルを連結し、液を少量膿盆に出して、カテーテルの中の空気を除き、カテーテルをクレンメでとめる。

(林 滋 子)

編集デスク <18>

学士院恩賜賞を受けた笹淵友一博士の受賞祝賀会があった。「文学界」を中心とする浪漫主義文学の研究の三著三千頁に及ぶ業績に対する授賞である。近代文学関係の研究者ばかりでなく、各層から多くの人が集まったのは、博士の研究の広さと、人徳のしからしめるところであろう。遠く九州からも母校九大関係の学者がはせつけていた。

枕になる本ということばがある。大著・大冊で、枕になるくらいの厚みを持つ本のことをいう。医学書院の医書では枕になる本をすでに数十冊つくっているが、一般の本で片々たる本は、もちろん枕にならない。ゆえに枕になる本は、量的にも千頁を越えるような大冊でなければならない。そして、学界に認められ、顕彰されるような本は、ただに量的な大著というばかりでなく、当然質的にもすぐれたものである。

ところで、今度恩賜賞を受賞した笹淵博士の三著は、大著すぎてかえって枕にならない本である。三千頁

の大冊では、首がまがってしまう。とても枕にはならない。本を枕にするなどとは、学問を冒瀆するかのようなたとえで恐縮であるが、大著の感覚として私たちにはびったりくるのである。

私は、笹淵博士の三著の最初の巻が出た時に依頼されて「図書新聞」にいち早く書評を書いたこともあずかっているだろうが、近代文学関係者では本間久雄博士と共に祝辞を呈することになった。本書が浪漫主義文学のエンサイクロペディアである

(枕にならない本)

——長谷川 泉——

ことを述べ、次のような祝詩を呈した。三千頁の大著は一朝一夕になるものではない。生涯の作業である。還暦を迎える博士の、たゆまぬ努力があって可能なことである。人おのおの向かうところは異なるであろうが、一道において、万人が認め、みずから満足し得るような作業をなしとげてゆくことは容易なことではないことを痛感する。

ロマンティックの

ことわりの
かくも深く
みちのり
道程の
かくもはるけくこそありしか

踏み分くる
窮めの道の
きびしく ごどしく
年をふり 月をけみして
はるかなる 道程に
打ちたてられたる
新なる 道標

この新なる
大いなる道標は
同じ学びのともがらにも
後から来る者のためにも
ロマンティックの

ことわりの
よりどころ深く
足どりの
はるけきことを示す

ミューズの苑の
ロマンティックの茂みの
いや深く はるけく
道なきを 導く
この新なる 道標よ
この大いなる 道標よ